

武田流門松づくりを通じて、伝統技術を後世につなぐ

山梨県造園建設業協同組合・協同組合甲府市造園協会

山梨県造園建設業協同組合（帯金岩夫理事長 組合員 33 社）と協同組合甲府市造園協会（清水文一理事長 組合員 20 社）は、11 月 14 日に県立武田の杜サービスセンターで「武田流門松」の歴史と製作技法について学ぶ講習会を開催、組合員 26 名が参加した。

「武田流門松」は武田信玄公が考案したとされる門松で、竹の先端を平らに切り、松は竹より低く、化粧巻きは武田家家紋の武田菱に、根締めには松を使わず笹を使うといった特徴がある。

講習会の講師は、山梨県造園名工会の「現代の名工」小林稔蔵氏と「やまなしの名工」清水文一、今井正行、野尻広光の 3 氏を招き、講習と製作実習として行った。小林氏から武田流門松の歴史や由来と作業



武田流門松を製作する組合員

手順について説明を受けた後、参加者が 3 班に分かれ講師の指導を受けながら 3 時間ほどかけて約 1.5 m の武田流門松を完成させた。今回製作した 3 対の門松は、業界の技術の PR も兼ねて、12 月下旬から多くの人に鑑賞してもらえるように山梨県庁に 2 対、甲府市役所に 1 対を展示する予定となっている。

帯金理事長は「伝統技術の継承は、単に技術・技能の習得だけではなく、その文化が根付いた背景や歴史を紐解きながら、技術と知識の両面を伝承していくことが大切になる。今後も山梨県特有の武田流門松の製作を通じて、伝統技術の普及に取り組んでいきたい。」と話し、清水理事長は「人手不足が深刻になる中で、限られた人材を有効に活用するには、従業員の施工技術や知識レベル等の底上げを図っていく必要がある。新しい技術だけでなく、今回は武田流門松の製作技法について学んだが、これからも定期的に講習会を開催し造園技術者の育成に努めていきたい。」としている。



完成した武田流門松